

# 新井中央小だより

ホームページ <http://azalea.ac.city.myoko.niigata.jp/araich-s/otayori/index.html> No.251

メールアドレス [chuou@ac.city.myoko.niigata.jp](mailto:chuou@ac.city.myoko.niigata.jp) 2020（令和2）年7月30日

## なんとなくいい感じ

新型コロナウイルスに始まり、新型コロナウイルスで終わる感のある1学期でした。第2波が心配な状況ではありますが、学校再開後は、新しい生活様式のもとで、教育活動を続けていくことができました。感染防止に係る様々な変更・対応等へのご理解とご協力をありがとうございました。たいへんな状況の中での1学期でしたが、私は、最近の子どもたちの様子を見て、「なんとなくいい感じ」という感覚をもっています。

先日、昼休み、2年生の子どもたちが、校長室に誘いに来てくれました。「校長先生、1時10分から、〇〇さんと□□さんが、パプリカを歌って踊るから、観に来てください。」「はい。誘ってくれてありがとう。今、行くよ。」



音楽室に行ってみると、ほどよく密にならない位の観客が集まっていました。ほどなく二人のコンサートが始まりました。アカペラで元気に明るく楽しく歌う姿に感心。ダンスの息もピッタリです。観客も手拍子で応援。一体感と感動のうちに1曲だけのコンサートが終わりました。「観に来てくれてありがとうございました。お気をつけてお帰りください。」締め言葉も立派でした。聞けば、子どもたち企画の自主コンサートだったとのこと。企画力、表現力、観客集めのチーム力に脱帽です。「なんとなくいい感じ」です。「コロナ後の社会は、この子どもたちがたくましく創っていってくれる。」そんな、希望もくれた素敵なひとときでした。

今朝、校門の前に何人かの子どもたちが集まっていました。「どうしたの？」取り囲んでいる地面の中心を見ると・・・。「おー、カブトムシ！」「角あるね。オスだね。」子どもたちがつかもうとしますが、苦戦しています。「よーし。校長先生に任せろ！」なんとかつかめました。・・・、「痛たたた・・・。」カブトムシのトゲトゲ足の必死の抵抗に遭い、私も苦戦。

それでも、痛みを耐えながら、なんとか、近くの銀杏の木まで運び、幹にとまらせることができました。カブトムシは、上へ上へと、どんどん登って行きました。子どもたちとみんなで見上げながらお見送り。「なんとなくいい感じ」です。

カブトムシ救出作戦のすぐ後、今度は、畑の中から声をかけられました。「校長先生、オクラ採れました。」「よかったね。大きなオクラだね。」「もう一つあるけど、採れません。」

見ると、手に持っているオクラもひねって、ひねって、やっとなじ切ったことがよく分かりました。「よーし。校長先生に任せろ！」その子のマイ畑のマイオクラを案内してもらい、収穫作業に挑戦。また、また、私も苦戦。やっとなじ切り、「はい、どーぞ。」手渡すことができました。「もう少し小さいうちに収穫するといいよ。」野暮なアドバイスの言葉は、飲み込みました。食べれば分かる。それも勉強です。これも、「なんとなくいい感じ」でした。

最後に学期末学校評価保護者アンケートより、「なんとなくいい感じ」の言葉を紹介します。「学校へ喜んで通うことができているのも、先生方に親切にご指導していただいているおかげだと思います。他学年との交流も、楽しそうにしている様子がうかがえて微笑ましく思っています。これからもメリハリのある生活を送って、楽しんで欲しいです。」（1年生保護者）

一所懸命、今を生きる子どもたちがいます。応援してくれる保護者、地域のみなさんがいます。苦難の時を力を合わせて乗り越えていきたいと思っています。 校長 加藤 晃